



宮崎の僕の実家は、豆腐屋を営んでいました。

僕が子どもの頃は土日も関係なく両親は仕事していました。

僕が3歳くらいだったでしょうか、僕を不憫に思ったのか、同居していた祖父が、敬老の日の老人会のバス旅行で連れてってくれたのが、表紙の写真、宮崎県・日南市にある鵜戸神宮でした。

焼酎を呑んで歌って踊る陽気な祖父は、老人会でも人気者でした。

鵜戸神宮の風景は何も覚えてませんが、バスで楽しそうに「芸者ワルツ」を歌う祖父のことは、うっすらと覚えています。



それから祖父のことで忘れられないのは2歳下の弟の結婚式でのこと。

泥酔した祖父はスピーチや歌といった自分の出番がないことに腹を立て、披露宴の最中に大暴れ。

僕や叔父4人がかりで、祖父の両手両足をそれぞれ持って大声で騒ぐ祖父を会場の外に担ぎ出しました。(＞＜)

喜劇王チャップリンの言葉に「人生は近くで見ると悲劇だが、遠くから見れば喜劇だ」とあります。

弟の披露宴の後は「いい歳した爺さんが・・・」と怒鳴り込んできた義妹の親族に平謝りしたりして大変でしたが、今となって思い返すと笑ってしまいます。

そんなこともあったので、その2年後の僕の結婚式では、祖父にスピーチを頼みました。

その祖父の元気と深い愛情にあふれたスピーチはとても好評。僕にとっても思い出深いものとなりました。

祖父は、80代半ばまで豆腐屋の仕込みを担当していましたが、朝4時に起きて新鮮な豆乳をアルミのボールいっぱいにして飲んでいました。93歳で亡くなる迄とうもろこしや里芋の畑仕事もしていました。まったくもって、「問題爺（もんだいじい）」は、たいした爺さんでもありました。

わしの出番はー？



今年6月に「**年金制度改革法**（令和2年法律第40号）」が公布されました。より多くの方がこれまでよりも長い期間にわたり働くことが見込まれる中で、今後の社会・経済の変化を年金制度に反映し、長期化する高齢期の経済基盤の充実を図るためのものです。

「被用者保険の適用拡大」等広範囲にわたる法改正ですが、とりわけ働くシニア層にとって注目すべきは、令和4年4月から適用される「**在職中の年金受給のあり方の見直し**」です。

60歳以降に働いた場合、その報酬額と年金額の合計が一定額以上を超えると年金支給の一部または全部が停止になってしまう「**在職老齢年金**」の制度を一部見直し、年金が減らされることを嫌って働くのをセーブする人を減少させ、高齢層のさらなる就業を促進させることを目的としています。



年金制度や医療制度、生活保護や雇用調整助成金等の充実を図ることは大事ですが、そのようなセーフティーネットに頼ってしまうと税金や保険料がいくらあっても際限がありません。

「**働いてもらうこと**」は**経済対策**であるとともに、**最大のセーフティーネット**なのです。

在職老齢年金の見直しだけではありません。ワークライフバランスの施策も、パワハラ防止も、育児や介護給付金も、働き方改革も、新型コロナ特例の雇用調整助成金も、そんな労働に関する殆どの法律や施策は、「**働いてもらうこと**」の一点につながると僕は思っています。



政府が緊急事態宣言の再発令に消極的なのも、根底にはそれがあるのではないのでしょうか。

酒癖は問題ありでしたが、**元気に楽しく歳を重ねていって生涯働き続けた祖父は僕の目標**。

人生100年時代。新型コロナにも、それから熱中症にも用心して、元気に楽しく働き続けたいと思います。あ、それと飲みすぎ注意の点では「反面教師」にもしなくちゃね。( ^\_- ) ☆

